

陶芸の旗手

RYOJI KOIE

鯉江良二展

引出黒茶碗
2003 岐阜県・上矢作
「織部一転換期の日本美術」
メトロポリタン美術館出品作品



碓-まくら-
1995 岐阜県・上矢作



韓国手三足壺
1998 韓国・大部

織部壺
2004 岐阜県・上矢作



●2009年 4月2日(木)～4月14日(火)
●京阪百貨店 守口店7階京阪ギャラリー

◎鯉江良二によるギャラリートーク 4月2日(木) 午後1時30分～
◎開催記念ジャズライブ 4月4日(土) 午後3時～

●会期中無休 ●ご入場は午前10時から午後7時30分※最終日のご入場は午後4時30分まで
●入場料/高校生以上 300円※65歳以上、中学生以下は無料(65歳以上の方は年齢の証明となるものを受付にご提示下さい)
●主催/朝日新聞社 ●協力/山木美術

京阪電車守口市駅下車スグ、地下鉄谷町線守口駅下車徒歩5分/〒570-8558守口市河原町8-3電話06(6994)1313(代)/www.keihan-dept.co.jp/



KEIHAN

もりぐち京阪

「やきものとは何か」

「やきものとは何か」を問い続けている鯉江良二。茶碗や鉢、壺などの器はもちろんオブジェ作品にも挑戦している。「メッセージのない作品はありえない」とばかりに、原爆もまた「やきもの」であるとして、反核のメッセージを明確に打ち出した作品『NO MORE HIROSHIMA, NAGASAKI』や100点を超す『チェルノブイリ』シリーズなどを発表。

このほか韓紙に泥を流した『泥イング』、鉄板に土を置き粉殻で焼いて痕跡を表した『火のメッセージ 1990 September』さらには紙を素材にしたペーパーワークなど、「やきもの」の領域を超えた世界で創作活動の新境地を拓く。

鯉江は1938年、常滑市に生まれ、高校卒業後に常滑市立陶芸研究所に就職。1966年に自立するが、その前から現代日本陶芸展や朝日陶芸展に出品し入賞を果たす。1960年代から走泥社の八木一夫に誘発され、オブジェ作品を発表し始める。

1970年代前後からは、自身の顔をかたどった<マスク>や<土に還る>のシリーズで現代美術家として頭角を現す。

1972年に第3回バロリス国際陶芸ビエンナーレ展で国際名誉大賞を受賞。1982年には、山口県立美術館で「今『土と火で何が可能か』展」に出品し、注目される。さらに1993年に日本陶磁協会賞を受賞、2001年には第3回織部賞を受ける。

1996年に岐阜県立美術館において「地⇄人」の展覧会が開催される。その後もアメリカをはじめオーストラリア、スペイン、韓国など世界10数ヶ国でワークショップや展覧会を開催し、国際的な陶芸家として活躍し、現代陶芸を通じ「社会へのメッセージ」を発信し続けている。

今回の展覧会には、初期の実用陶器の茶碗をはじめ花器、壺、盤などからオブジェ作品の代表作『チェルノブイリ』や「土に還る」、さらには最近の紙を使った作品など、陶芸家として模索を続けてきた足跡をたどる約110点を展示する。

カタロニア手ガレナ軸器
1990 スペイン・カタロニア



カラマズー手引出黒茶碗
1992 米国・ミシガン



ニュージャージー手茶碗
2001 米国・ニュージャージー



シアトル手脚付盤
1999 米国・ワシントン



和紙にドロイーイング 2005 岐阜県・上矢作



「水」ドロイーイング 1993 岐阜県・上矢作